

Windows アプリケーションの開発

～出欠リストアプリケーション開発～

3 年 0 4 0 土本 壮至

1. 目的

Windows アプリケーションがどのような仕組みで動作しているかを自ら調べて理解し、実際にプログラミングしてみる。開発環境には visual C++を使用する。今回は Windows アプリケーションとして「サークルでの出欠リスト」を作成して見るにより、Windows アプリケーションの仕組みについてさらに理解を深める。

2. 原理

Windows アプリケーションは基本的には標準関数 (printf など) は呼び出さず、呼び出すのは Windows API と呼ばれる関数群である。これらの関数は Windows という OS へ命令を送ることを可能とする。

3. 作成アプリの仕様 (出欠リスト)

今回は、Microsoft Visual Studio 2005 (Visual C++) を使用し、(MFC ライブラリ利用) 出欠リストアプリケーションを作成してみる。

出欠リスト：野球サークルに所属しており、メンバーからメールで試合の参加か不参加が送られる。その時に簡単にメンバーの出欠状況を管理するためのアプリケーションを作成してみる。

4. 結果

出欠 list アプリを作成中に、ツールボックスから、ラベルやラジオボタンを貼り付けるのではなく、配列を使用して自らソースで記述することによって、苦勞したが（特にポインタ配列の記述方法）プログラム全体の流れが、理解でき、イベントの発生させた時に起こる動作を記述しやすかった。ただ、出欠の集計データをセーブすることが出来なかった点は、出欠リストをよりよく活用するためにはセーブは必要だと考えられる。また、セーブして初めて、Clear ボタンの意味（＝前に残っているデータをクリアさせる）がある。